



2014年8月25日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
2. 第32回大会のお知らせ
3. 第8回国際春季フォーラムのご案内  
理事会より
4. 編集委員会より
5. 大会運営委員会より
6. 広報委員会より  
学会賞委員会より  
JELS・ネームカードの変更について  
言語系学会連合について
7. 事務局より

## 会長挨拶

会長 大庭幸男

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より学会の諸活動にご協力・ご支援を賜りまして深く感謝申し上げます。

さて、日本英語学会は、会則第2条にありますように、英語の共時的・通時的研究及び言語理論の進歩・発展に寄与することを目的としています。そのために、会員の皆様による創造的な知の探求と健全な研究活動の円滑化を図り、それを促進するように、学会運営がなされてきました。しかし、残念ながら、すでにホームページ上で公示されていますように、投稿規定を遵守していない、そして、研究者としての倫理規範に反すると認定される論文がありました。そのため、当該論文の採択が取り消され、学会誌の論文として無効となる事態が生じました。挨拶の冒頭で残念な報告となりましたが、会員の皆様におかれましては、研究論文を投稿される際、あるいは研究発表に応募される際には、ELやJELSの投稿規定、研究発表応募規定、そして「研究活動における不正行為防止等のガイドライン」を遵守していただきますようお願いいたします。

ところで、昨年の福岡大学で開催された日本英語学会第31回大会におきまして、学会の活性化を図るための予備調査として、会員の皆様にアンケート調査を実施させていただきました。アンケートの回答の中に、学会の活性化と会員数の増加につながる意見として、優秀な研究発表に「学会発表賞（仮称）」を設置しては、という回答が複数ありました。そこで、本年6月22日に開催された理事会におきまして、大会運営委員会の丸田忠雄委員長からこれに関する議論の経過が報告され、11月7日の大会運営委員会で審議の上、実施の方向で議論していくとのことでした。11月同日に開催される理事会において、この大会運営委員会の結論を種々検討・審議することになっていきますので、来年度から実施される可能性が強くなりました。同理事会において実施が承認されましたら、来年2月刊行のNewsletter 『え〜ごがく』No.62にてご報告申し上げます。

ここで、今年度の本学会の大会開催につきましてご報告申し上げます。まず、第7回国際春季フォーラムが4月19日－20日に同志社大学今出川キャンパスにおいて開催され、盛会裡に終わりました。今年度も韓国英語学会(ELSOK)から2名の招待講演がありました。また、今回はじめて書籍展示も行われました。この国際春季フォーラムの開催にあたり、同志社大学の龍城正明先生をはじめとして、同大学の関係者の皆様、そして大会運営委員の皆様には大変お世話になりまして、誠にありがとうございました。

また、本年11月8日－9日には、学習院大学で第32回大会が開催されます。今回は言語系学会連合との共催で公開特別シンポジウムが企画されています。題目は「言語系学会は、学問研究の成果を、今、どのような形で社会に還元することができるか？—言語教育への貢献を巡って」となっており、さまざまな学会（日本英語学会、大学英語教育学会、小学校英語教育学会、全国英語教育学会、日本第二言語習得学会）に所属されている3名の講師の方々に、小学校、中高、そして大学における英語教育について講演をしていただくことにしています。公開シンポジウムとなっていますので、会員でなくても、興味のおありの方にはどなたでも

参加できます。誘い合わせの上、多数ご参加いただければ願っています。

最後になりましたが、ご報告ならびにお礼とお願いを申し上げます。昨年8月発行のNewsletter『え〜ごがく』 No.59に書きましたように、例年採択されていた日本学術振興会の科研費が昨年度は不採択になりました。不採択の原因は分かりませんが、基盤研究 (A) と (B) の応募件数が他の学会に比べて極端に少ないことに、間接的であれ関係があるのではないかと考えています。そこにも書きましたように、この大型科研は応募件数が多ければ多いほど採用枠が広がりますし、それと同時に、学会全体が活発に研究活動をしていると評価され、科研費も採択されやすいのではないかと思います。そこで、昨年の今頃、理事、ワークショップ責任者、そしてシンポジウム企画者の皆様に大型科研に是非応募していただきたい旨の依頼をさせていただきました。それが功を奏したのでしょうか、今年度、科研費が採択されました。まずは、ご報告申し上げますとともに、ご協力いただきました会員の皆様に、お礼申し上げます。それから、採択の有無は学会運営にとって重要なことですので、会員の皆様におかれましては、今年度も大型科研に多数、ご応募くださいますようお願いいたします。

稲田俊明前会長の後、事務局を引き継ぎまして、1年半を迎えようとしています。今後も学会運営に微力ながらも尽力いたす所存ですので、会員の皆様には今後とも日本英語学会の発展のためにご理解とご支援を賜りますように、お願いいたします。

## 第32回大会のお知らせ

日時：2014年11月8日(土)～9日(日)

場所：学習院大学

(〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1)

日本英語学会第32回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第1日の午後と第2日の午後に予定しております。

11月8日(土)

9:30～11:45：ワークショップ

12:00～12:50：総会

13:00～14:55：研究発表

15:15～18:00：公開特別シンポジウム／  
シンポジウム

18:20～19:50：懇親会

11月9日(日)

9:30～12:45：研究発表

13:45～16:30：シンポジウム

今年度は、6つのワークショップ(うち1つはスチューデント・ワークショップ)、32の研究発表と6つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。([ ]内は司会者、( )内は講師と題目を示します。)

**A. 「言語系学会は、学問研究の成果を、今、どのような形で社会に還元することができるか？—言語教育への貢献を巡って」(公開特別)** [岡田伸夫] (伊東治己：「小学校英語の教科化について考える」、村野井 仁：「第二言語習得理論の中高英語教育への応用」、岡田伸夫：「英文法研究の成果を大学英語教育に活かす」)

**B. “Discourse Expressions and Information Structure”** [澤田 治] (Christopher Davis: “Contextual Relations and Pragmatic Constraints”, David Y. Oshima: “Shared Knowledge, Soliloquy, and the Functions of the Discourse Particles (*Yo*)ne and (*Yo*)na”, Osamu Sawada: “Comparison and Goal-shifting”, Eric McCready: “Politeness and Expressivity”)

**C. 「頻度と言語研究を考える」** [高橋英光] (大橋浩：「頻度基盤による分析—英語強意副詞句の変化を例に」、高橋英光：「コロストラクション分析の落とし穴」、長谷部陽一郎：「メンタル・コーパスという概念的構築物」)

**D. 「動詞句とその周辺をめぐって：語彙範疇と機能範疇の役割」** [長谷川信子] (藤田耕司：「言語進化から見た動詞句」、西山國雄：「文の三層構造から見た日本語動詞の活用形」、Tomoko Ishizuka: “What does VOICE<sub>PASS</sub> -rare Do?”, 長谷川信子：「文のアスペクト：動作主の欠落と状態性」)

**E. 「言語変化に対する多角的アプローチ」** [大村光弘] (大村光弘：「言語変化の意味論的・語用論的分析—(相互)主観性を中心に一」、石崎保明：「認知言語学の視点からの通時的言語変化」、縄田裕幸：「統語的変異の出現と収束」)

**F. 「ナラティブ研究における社会貢献の可能性を**

巡って」[秦 かおり] (佐藤彰:「震災の語りにおけるアイデンティティー構築について」, 秦かおり:「遠隔地から震災を語る—在英邦人女性と英国人女性のナラティブ分析—」, 井出里咲子・岡本多香子:「語りにもられる「母」としての私—出産育児体験談の日米比較から—」, ディスカッションとして片岡邦好氏)

公開特別シンポジウム「言語系学会は、学問研究の成果を、今、どのような形で社会に還元することができるか?—言語教育への貢献を巡って」については、非会員でも無料で参加できます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」および9月以降に日本英語学会ホームページにて掲載されます大会における発表要旨とワークショッププログラム(ともにダウンロード可能)をご覧ください。

#### ◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費(2,000円)をいただき *Conference Handbook* と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください(公開シンポジウムのみ参加費と名札なしで入室できます)。また、11月8日(土)の受付は11時30分より始めますので、お早めにお出かけ下さい。

#### ◇ 総会について

8日(土)の12:00より12:50まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告などがあります。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

#### ◇ 懇親会について

8日(土)18:20より19:50まで、学内の輔仁会館1階 大学食堂西館において会員懇親会(会費4,000円(学生3,000円))を催します。是非ご参加下さい。

#### ◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には

証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内  
日本英語学会事務局

#### ◇ 学内食堂の利用時間

8日(土)は学内の食堂をご利用いただけます(営業時間は11時~13時30分)。9日(日)は食堂の営業はありませんので、昼食をご持参いただくか、学外のレストラン等をご利用ください(会場にてランチマップを配布いたします)。

### 第8回国際春季フォーラムのご案内

第8回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時:2015年4月18日(土)・19日(日)

場所:成蹊大学

(〒180-8633)東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧ください。

### 理事会より

#### ○ 会計

2013年度収支決算書および2014年度予算計画書が、6月22日開催の第68回理事会、ならびに理事会メール会議にて審議の結果、承認されました。

#### ○ 役員の異動

顧問就任(平成26年4月1日付)

中島平三氏(学習院大学)

理事就任(平成26年4月1日付)

家入葉子氏(京都大学)、伊藤たかね氏(東京大学)、内田聖二氏(奈良大学)、大室剛志氏(名古屋大学)、岡田伸夫氏(関西外国語大学)、松本曜氏(神戸大学)、米山三明氏(成蹊大学)[任期2年(再任可)]

理事退任(平成26年3月31日付)

池内正幸氏(津田塾大学)、大津由紀雄氏(明海大学)、澤田治美氏(関西外国語大学)、外池滋生氏(青山学院大学)、長谷川信子氏(神田外国語大学)、

廣瀬幸生氏（筑波大学）、山梨正明氏（関西外国語大学）

評議員就任（平成 26 年 4 月 1 日付）

五十嵐海理氏（龍谷大学）、神崎高明氏（関西学院大学）、小早川暁氏（獨協大学）、田端敏幸氏（千葉大学）、中澤和夫氏（青山学院大学）、中谷健太郎氏（甲南大学）、野村忠央氏（北海道教育大学）、福井直樹氏（上智大学）、藤田耕司氏（京都大学）、松本マスマ氏（大阪教育大学）、山田仁子氏（徳島大学）、鷲尾龍一氏（学習院大学）[任期 2 年（再任可）]

評議員退任（平成 26 年 3 月 31 日付）

有村兼彬氏（甲南大学）、影山太郎氏（国立国語研究所）、加藤泰彦氏（上智大学）、梶田幸栄氏（千葉大学）、澤田治美氏（関西外国語大学）、鈴木英一氏（獨協大学）、外池滋生氏（青山学院大学）、水野政勝氏（北海道教育大学）、中島平三氏（学習院大学）、東森勲氏（龍谷大学）、森岡芳洋氏（徳島大学）、柳さよ氏（福岡大学）、

監事就任（平成 26 年 4 月 1 日付）

岡崎正男氏（茨城大学）[任期 2 年]

監事退任（平成 26 年 3 月 31 日付）

米山三明氏（成蹊大学）[理事就任に伴う退任]

編集委員長就任（平成 25 年 9 月 1 日付）

加賀信広氏（筑波大学）[平成 27 年 11 月 30 日まで]

編集委員長退任（平成 25 年 11 月 30 日付）

伊藤たかね氏（東京大学）

大会運営委員長就任（平成 25 年 12 月 15 日付）

丸田忠雄氏（東京理科大学）[任期 1 年]

大会運営委員長退任（平成 25 年 12 月 14 日付）

大不力氏（名古屋大学）

学会賞委員長就任（平成 26 年 4 月 1 日付）

池内正幸氏（津田塾大学）[任期 1 年]

学会賞委員長退任（平成 26 年 3 月 31 日付）

高見健一氏（学習院大学）

ご退任のみなさま方、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

○ **第33回大会（2015年度）の開催校**

来年度の大会は、2015年11月21日(土)、22日(日)に関西外国語大学にて開催される予定です。詳細については、2015年2月末に発行予定の『え〜ごがく』62号にてお知らせいたします。

○ **ELSOKとの交流について**

『え〜ごがく』60号でお知らせしましたように、2014年4月19日、20日に開催しました第7回国際春季フォーラムに韓国英語学会（ELSOK）から、Kee-Ho Kim氏（Korea University）とJang-Song Lee氏（Korean Military Academy）をお招きし、2014年4月26日に開催されましたELSOK主催の学会で、日本英語学会から北原久嗣氏（慶應義塾大学）と西岡宣明氏（九州大学）の招聘発表が行われました。

○ **臨時理事会の開催について**

平成 26 年 6 月 22 日、通常理事会に先立ち臨時理事会を開催しました。

EL 29-2 と JELS 29 に掲載された書評と論文が、研究者倫理に反するものと認定され、取り下げが決定し、本学会の論文として無効となりました。Author index からも削除されていますが、これらの論文からの引用は認められませんので、ご留意下さい。詳細についてはホームページをご覧ください。

## 編集委員会より

◇ **2013年度EL研究奨励賞受賞論文の決定について**

EL 30巻に掲載された Article 5編（Syntax 3, Syntax/Semantics 1, Morphology 1）、Brief Article 5編（Syntax 3, Historical Linguistics/Syntax 1, Cognitive Linguistics 1）合わせて10編の中から、1次審査通過論文として選定された、Article 4編（Syntax 3, Morphology 1）、Brief Article 1編（Syntax 1）について、編集委員長、副委員長を含めた6名の最終選考委員により最終審査が行われ、以下の3編を受賞論文として決定しました。

荒野 章彦：“Uninterpretable Features and the

Immobility of Constituents” (分野：Syntax)  
 水口 学：“Reconsidering Phase-Internal  
 Derivations: Are They Exceptional or Not?”  
 (分野：Syntax)  
 長野 明子：“Morphology of Direct Modification”  
 (分野：Morphology)

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	5	3	1	0	1
BA	3	2	1	0	0
N&D	4	1	3	0	0
RA	2	2	0	0	0
Review	6	5	0	1	0
4ヶ月書き直し					
AR	2	1	1	0	0
合計	22	14	6	1	1

#### ◇ *English Linguistics* 第31巻1号 (2014年春号) の刊行について

EL 31巻1号 (春号) が刊行されました。Invited Article 1編、Article 3編、Brief Article 2編、Notes and Discussion 2編、Review Article 3編、Review 10編が掲載されています。

#### ◇ 掲載論文の副題について

上記 EL 31 巻 1 号掲載の Brief Article “Against Feature “Copying”: A Reply to Ohtaka (2013)” の副題について、ある会員の方から不適切ではないかとのこと指摘があり、編集委員会で確認したところ、一般的に a reply to という表現が使用される状況ではないことが判明しました。今後、電子版の Contents やアーカイブ化予定の当該論文では、タイトルから副題を削除する処置をとることと致します。元論文の著者の方と関係者の方々ならびに会員の皆様には、不適切な形で出版がなされたことを深くお詫び申し上げます。

今後当該論文に言及される際には副題を削除して下さいますよう、皆様にはお願い致します。

#### ◇ *English Linguistics* 第31巻2号 (2014年秋号) の応募論文について

2014年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は12編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 5 編 (Phonology/Historical Linguistics 1, Morphology/Syntax 1, Syntax 2, Cognitive Linguistics 1)、Brief Article 3 編 (Syntax 3)、Notes and Discussion 4 編 (Morphology 1, Syntax 2, Historical Linguistics 1) でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article 2 編 (Syntax 1, Semantics 1) でした。

以下の表は、巻通による Review 6 編および Review Article 2 編と 31 巻 1 号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、31 巻 2 号に再投稿された論文 2 編も含めた、31 巻 2 号の審査状況です (2014年7月31日現在)。

なお、「特別企画 2013」の事前審査 (2013年12月16日締め切り) には1件の応募があり、一括投稿が認められました。当該企画 (Brief Article 相当論文4編と Introduction) は2014年4月25日に一括投稿され、一般論文とは別に現在審査中です。

#### ◇ *English Linguistics* 第32巻1号 (2015年春号) への投稿について

2015年6月発行予定の *English Linguistics* 第32巻1号の応募締め切りは、2014年9月20日 (土) 24時 (必着) です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿 くださいますよう、お願い申し上げます。

#### ◇ 「特別企画 2014：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、EL 32 巻の編集に向けて、本年度も「特別企画 2014：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2014年12月15日です。公募案内が学会 HP に掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

### 大会運営委員会より

#### ◇ 第32回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には44篇の応募があり、審査の結果、32篇の研究発表が行われることになりました。

#### ◇ 第7回国際春季フォーラム報告

第7回国際春季フォーラムは、2014年4月19日 (土)・20日 (日) の両日、同志社大学今出川キャンパスにおいて開催されました。今回のフォー

ラムでは、4つの招待講演、20の口頭発表、11のポスター発表、1つのワークショップが行われました。133名（会員122名、非会員11名）の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の龍城正明先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の皆さん、本多啓実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心よりお礼申し上げます。

## 広報委員会より

### ◇ ELアーカイブ化と公開に向けた作業について

広報委員会では、J-STAGE 3（科学技術情報発信・流通総合システム）でのELアーカイブ化と公開作業に取り組んでいます。アップロードに伴う校正については、開拓社編集部と広報委員会との間で結ばれた申し合わせ手順に従って、執筆者の責任で校正作業が進められ、執筆者からの校正報告に基づきデータ修正をした後、委員会の確認を経て公開しています。現在、EL第29巻1号まで公開されています。

### ◇ 日本英語学会ホームページ改修とサーバー移転について

ホームページの内容を2014年3月に整理し、「研究活動における不正行為防止等に関するガイドライン」を新たに掲載しました。今後、より見やすく視覚効果の高いホームページにするため、新システム、新サーバーへの移行を視野に入れながら、新たなホームページ作成に向けて準備を整えているところです。

## 学会賞委員会より

### ◇ 新人賞と学会賞（論文）の応募状況

2014年度新人賞と学会賞（論文）の応募は5月31日に締め切られました。有資格者である2013年度EL研究奨励賞受賞者から、新人賞2件、学会賞（論文）1件の応募がありました。新人賞応募論文はどちらも極小主義統語論に拠るもので、学会賞（論文）応募論文の分野は形態論です。現在、選考委員会において厳正な審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本

英語学会総会で報告されます。

### ◇ 学会賞（著書）の応募状況

5月31日に締め切られた2014年度学会賞（著書）には2件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は2件とも受理されました。審査領域は、意味論と音韻論です。学会賞（著書）に関しては、1次審査と最終選考の2段階選考で、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

## JELS・ネームカードの変更について

JELSは昨年より、CD-ROMとして会員全員に配布し、希望者のみ冊子媒体を購入できる形となりましたが、冊子媒体の購入者はごく少数に止まりましたので、本年からはCD-ROMだけの発行に一本化することとなりました。

また秋の大会で使用するネームカードは、春季フォーラムと同様、首から下げる形式に改めることと致します。

## 言語系学会連合について

今年度は、日本英語学会が本連合の運営を担当することになりました。運営委員会委員長は大庭幸男会長が務めることになり、運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2014年4月より1年間）  
大庭幸男（委員長、日本英語学会）、Stephen Brown（副委員長、全国語学教育学会）、窪菌晴夫（日本語学会）、金水敏（日本語学会）、野田尚史（日本語教育学会）

【監査委員】  
小林正人（日本語学会）（学会として2013年4月より2年間担当）、前田直子（日本語学会）（学会として2014年4月より2年間担当）

【事務局】（任期は2014年4月より1年間）  
岡田禎之（事務局長、日本英語学会）、森英樹（日本英語学会）

5月24日に運営委員会が関西外国語大学で開催

され、昨年度の活動と決算案、今年度の活動計画案と予算案、加入・退会に関する内規等について審議が行われ、すべて承認されました。また、7月5日に意見交換会が同大学で開催され、上記の報告があったのち、(1)不正行為等に関連する倫理規定、(2)Web上に公開された博士論文の取扱い、(3)本学会連合における各学会の役割・メリット・他学会との関連性等について意見交換が行われました。なお、(2)については、加盟学会に対してアンケート調査を行うこととなりました。

また、今年度は、日本英語学会の企画として、公開特別シンポジウムを11月8日の本学会大会時に開催することになりました。題目と司会・講師は以下の通りです。

題目：「言語系学会は、学問研究の成果を、今、どのような形で社会に還元することができるか？一言語教育への貢献を巡って」

司会・講師：岡田伸夫氏（関西外国語大学教授、所属学会：日本英語学会、大学英語教育学会）、講師：伊東治己氏（鳴門教育大学教授、所属学会：小学校英語教育学会、全国英語教育学会、大学英語教育学会）、講師：村野井仁氏（東北学院大学教授、所属学会：日本第二言語習得学会、大学英語教育学会、全国英語教育学会）

詳細は、言語系学会連合ホームページ <http://www.nacos.com/gengoren/index.html> をご覧ください。

## 事務局より

### ○ 会員数について

2014年3月31日現在の会員総数は、1,412名です。

### ○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

### ○ 学生会員登録について

学生会員登録には継続手続きが必要です。指定された期日までに継続手続きをしない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

今年度の学生（継続）会員手続きは、2014年4月25日（金）に締め切りました。学生会員として新規入会される方につきましては、年度内のいつご入会戴いても学生会員として登録させて戴きます。

手続きの方法については、日本英語学会ホームページをご覧ください。

### ○ 日本英語学会からの各種お知らせについて

ホームページにあります研究発表応募規定、EL投稿規定、学会賞・新人賞の応募規程等が本年3月末に改定されております。これは「不正行為防止等に関するガイドライン」の制定に伴う改訂ですので、必ずご確認くださいませよう、お願い申し上げます。ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に関覧することをお勧めします。

### ○ EL, JELS への論文投稿に関するお願い

EL, JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

### ○ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本

英語学会事務局宛てにお知らせください。

また、最近、各大学で「学術情報レポジトリー」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、ELに掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。この場合も日本英語学会事務局宛てにお知らせください。

EL論文の再録やレポジトリー、アーカイブへの登録をご希望の場合の連絡先のメールアドレスは、以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

#### ○ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録、および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までEメールでお申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリーなどへの掲載をお認めしています。

連絡先のメールアドレスは以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

#### ○ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをさせていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願ひいたします。

#### ○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構・日本英語学会会員管理担当(elsjkaiin@asas.or.jp)にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週

間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じた場合には、ご容赦お願い申し上げます。

#### ○ 外部査読者登録（更新）のお願い

「English Linguistics 外部査読者登録のお願い（2014-2015）」を事務局から送信いたします。今年の8月下旬から9月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定であります。外部査読者登録制度への会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

#### ○ 親と子の部屋について

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は、同封の「親と子の部屋利用案内」をご覧ください。うえ、事務局までご連絡下さい。



## 編集後記

昨年事務局を引き継ぎ、現事務局員は2年目となりますが、本年より広報委員会・学会賞委員会担当の書記を1名増員することをお認め戴きました。また本年度に関しては、日本英語学会が言語系学会連合の代表学会を務めることとなり、事務局担当となりましたので、当該書記はそちらの業務も兼務することとなります。本年4月1日からの事務局メンバーは、以下の通りです。本年の英語学会の活動におきましても、会員の皆様のご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務局長：岡田禎之（大阪大学）

編集委員会・理事会書記：

田中裕幸（関西学院大学）

岩崎真哉（大阪国際大学）

大会運営委員会・評議員会書記：

南 佑亮（神戸女子大学）

財務・国際春季フォーラム書記：

吉本真由美（実践女子大学）

広報委員会・学会賞委員会・

[26年度のみ]学会連合担当書記：

森 英樹（福井県立大学）

(S. 0)

---

2014年8月25日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 大庭 幸男

発行所 日本英語学会

<http://elsj.kaitakusha.co.jp/index.html>

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900

---

## 正誤表

下記の通り、誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

正誤箇所	誤	正
7 ページ 事務局より ○ 会費納入のお願い	2 年間滞納されますと、会員規定第 8 条第 4 項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。	2 年間滞納されますと、 <u>会則</u> 第 8 条第 4 項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。